

1. 第4回十勝川千代田分流堰魚道検討委員会（発言要旨と対応策）

項目	発言要旨	事務局等回答	対応
魚類調査状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾハナカジカは両側回遊魚であり、広範囲で確認されているので魚道対象魚とすべきである。 ・ヨシノボリとワカサギは確認されていないが、遊泳力の弱いイトヨは生息しているので、対象魚から外す必要はない。 ・復元ということを考えれば昔生息していた魚を対象魚としてもよいのではないかと。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・エゾハナカジカは新たに魚道対象魚として追加する。 ・ヨシノボリ、ワカサギは従来通り魚道対象魚とする。
期別流量の整理結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷魚道の流速は、突進速度ではなく巡航速度で考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・了解した。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・魚の遡上では遊泳能力と流速の関係だけではなく、渦の影響もあるのではないかと。 ・堰横魚道の特徴は傾斜を有する事である。傾斜角度によっては薄く流れが速くなることもあるので留意すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水理実験では、流速だけでなく、渦のできぐあい、流れの方向の状況をみて評価する。 ・留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水理実験で確認した。 ・水理実験で確認した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・50%頻度流量でよいのかどうか意見があるが、普通の川でも流量の変動があるのでいいのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・了解した。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷魚道では、当地区にあった望ましい蛇行形状を検討していきたい。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回委員会資料で説明。
高水敷魚道の基本諸元について	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷魚道に橋を架ける予定はあるのか。利用もできるし捕食対策にもなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷の利用計画の中では架ける予定はある。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木があるとかえってアオサギの止まり木になる恐れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒木の是非については、再度見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を踏まえ、倒木の設置は除外する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷魚道の施工では生物の専門家から助言を得る必要がある ・待避プールは深いが子供への危険性はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・了解した。 	-
	<ul style="list-style-type: none"> ・高水敷魚道の水際等に流速の遅い場所がないと、遡上が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上流区間は利用することを考えている区間であり、待避プールは積極的に利用させない下流側に設けることを考えている。 ・高水敷魚道は多自然型で考えており、水際には流速が遅い部分が形成される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回委員会資料で説明。
魚道観察施設について	<ul style="list-style-type: none"> ・観察窓は、どうするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つけるとすれば、屋内から観察するタイプが考えられる。 	-
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・堰横魚道の下流区間(新水路内)は、アオサギからの捕食は大丈夫か 	<ul style="list-style-type: none"> ・新水路内であるので捕食の効果的な対策はない。何かいい意見があったら委員のお知恵をお借りしたい。 	-